

大阪狭山市文化財報告書21

平成12年度狭山藩陣屋跡 発掘調査報告書

平成13年(2001年)3月31日

大阪狭山市教育委員会

1・調査にいたる経過

ここに報告するのは教育委員会が発掘調査を実施した狭山藩陣屋跡00-1区の成果である。00-1区はこの場所で行われる住宅建築に先立って実施したものであり、開発者の松川修氏にはさまざまご配慮をいただき、謝意を表したい。

発掘調査は2000年6月5日から同6月16日まで実施した。建築は現状地盤の上にさらに盛土を施す

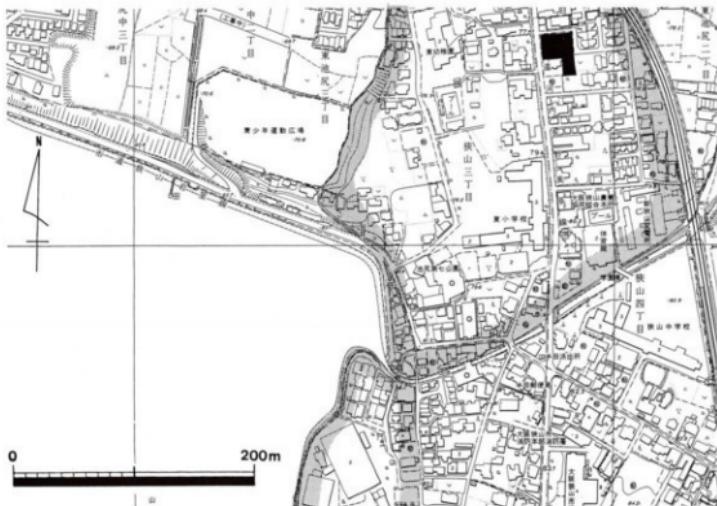


図1 調査地位置図 (S=1/5000)

設計であったため、既存の周辺地での調査の成果から考えて、住宅基礎の造構面に対する直接的な影響は少ないと考えられた。そこで深く掘削される擁壁基礎部分（A区）および埋設物が予定されている道路部分（H区）についてはすべて発掘調査を実施し、住宅建築予定地についてはそれぞれ2m四方の調査区（B～G）を設定し、造構の概要を把握することとした。

狹山藩陣屋は近世初期に北条氏によって作られた近世城館であり、明治維新まで継続した。上屋敷と下屋敷にわかれ、今回の調査地は上屋敷に含まれている。上屋敷は中央を南北に大手道（現在の府道美原河内長野線）が走り、もっとも北側に領主の住む御殿が設けられていた。大手筋に沿っては大身の家臣の邸宅が並んでいたが、今回の調査地は明治初期に作られた「狹山藩陣屋上屋敷絵図」によれば家老などを勤めた井出氏の邸宅敷地となっている。なお教育委員会では住宅開発や道路工事に際して狹山藩陣屋跡の発掘調査を継続的に実施しているが、これまでの調査では今回の調査区付近では上下2層の造構面がみられることが明らかになっている。

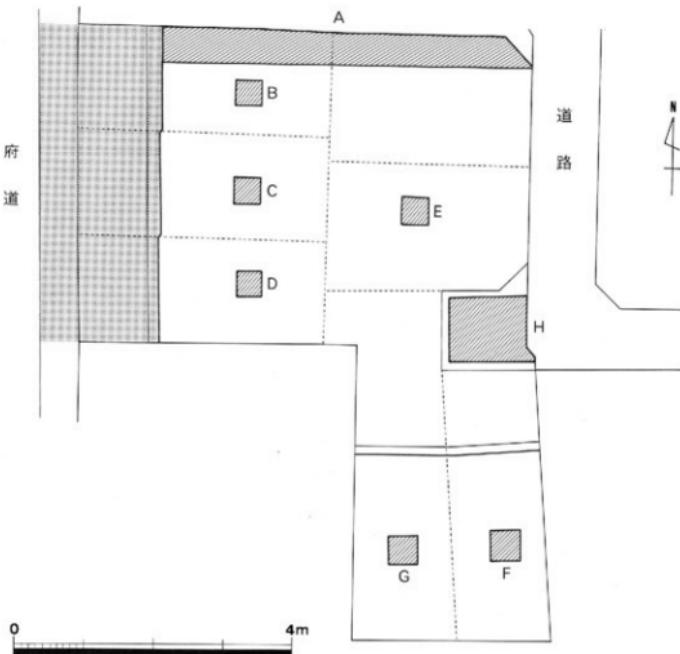


図2 調査箇所位置図

2・遺構

(A区) 調査区の北側の道路にそって設けられる擁壁の基礎部分がA区である。幅1.5m、長さ27mについて調査を実施したが、この場所はもともと敷地の北端にあたっていたために埋設管などが入っており、搅乱が著しく遺構、遺物などは検出できなかった。

(B区) 今回の調査区の周辺ではこれまで大阪狭山市教育委員会によって幾度も発掘調査が実施されているが、その結果現在の地面より20~30cm下に第1遺構面が存在することが判明している。しかしながら本調査区は、以前から駐車場として利用されていたためにその造成工事のために西よりのB区、C区、D区については第1遺構面がすでに削平されており、検出することができなかった。第2遺構面は現状地盤よりも50cm下がった場所で検出された。調査区の北側において落ち込み状の土坑が検出されている。径や形態はこの土坑が調査区よりもはるかに大きいため不明である。深さはもっとも深い箇所で30cmであるがこれも調査区外ではさらに深いことが予想される。埋土は青灰色のシルトであり、小規模な溜池として利用されていたものと思われる。このほかに遺構はなく、また遺物も検出していない。

(C区) C区においても他区の第1遺構面に対応する面は検出できず、現状地盤より40cm下がった場所で第2遺構面を検出した。遺構として調査区のはば中央を東西にながれる溝を検出した。この溝は幅80cm、長さは調査区内において180cm。東端はやや北側に屈曲して終っている。深さは調査区西端の一番深い部分で55cmであるが、屈曲部付近では浅くなつており30cm程度となっている。内からは瓦片や染付碗などが検出されている。

(D区) B、C区同様に第1遺構面に対応する面は検出できず、現状地盤よりも30cm下で第2遺構面を検出した。この面においては溝1条と土坑1基を検出した。溝は調査区の西端を南北に流れるが、溝の西側の肩は調査区外であり、幅や長さ、正確な方向は不明である。深さはもっとも深い北端の部分で43cmであり、調査区内でみるとかぎり溝の底は南から北にわずかに傾斜している。土坑は溝の少し東側にあり、直径は60cm、深さは35cmであった。これらの遺構の中からは遺物は検出されていないが、遺構面検出のための掘削中に瓦片が少数出土している。

(E区) E区は調査区全体の東よりの場所に所在している。現状地盤を35cm掘削した場所で第1遺構面を検出した。この遺構面においては不整形の落ち込み状の土坑を検出している。この土坑は調査区内では北側を底にした逆L字型であるが、調査区の外に大きく広がっており、全体の形はまったく不明である。深さはもっとも深い場所で25cmである。土坑の中からは大量の瓦片が検出されており、瓦を投棄する目的で掘削された土坑であると考えられる。第1遺構面からさらに40cm下で第2遺構面を検出した。この面においては北端で土坑1基を検出している。この土坑は調査区において東西140cm、南北56cmの方形を示しているが、大きく調査区外に広がっており全体の形態は不明である。深さは最大で28cm。埋土中より瓦片が検出されている。

(F区) 00-1区の全体の形は北を底辺としたI字型であるが、F区は南に突出した部分の東南隅に所在している。現状地盤より10cm下で、第1遺構面を検出した。この面では溝1条と土坑1基を検出した。土坑はやや南北に長い橢円形で、南北長50cm、東西42cmである。深さは18cm。また溝は南北報告に走っており、調査区内での長さは128cm、最大幅70cm、深さは5cmという非常に浅い溝である。第1遺構面の調査を終ってさらに掘削を行ったところ25cm下がった場所で第2遺構面を検出した。ところが調査区が狭いためにはほ全域が大きな土坑の内部に含まれてしまったので、調査区をさらに南側に2m拡大することとした。土坑の大きさは調査区内において南北370cm、東西180cm

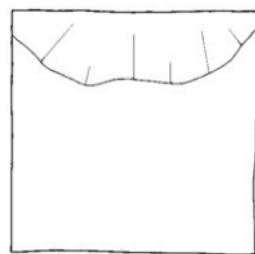


図3 B区第2面平面図
(S=1/20)

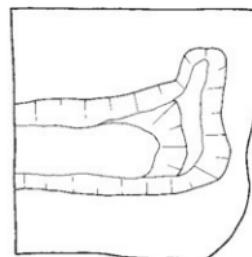


図4 C区第2面平面図
(S=1/20)

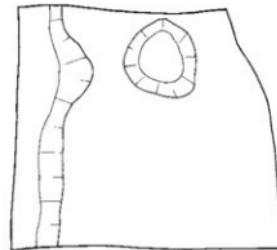


図5 D区第2面平面図
(S=1/20)

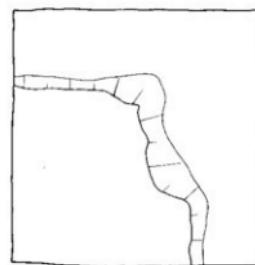


図6 E区第1面平面図
(S=1/20)

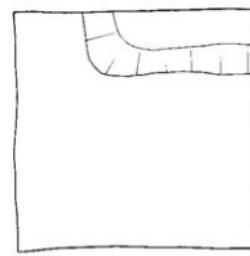


図7 E区第2面平面図
(S=1/20)

0 2m

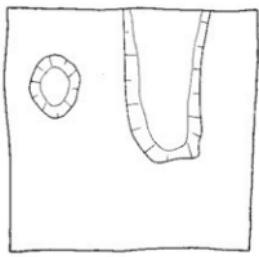


図8 F区第1面平面図
(S=1/20)

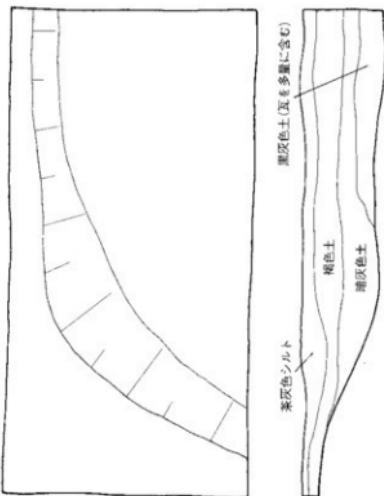


図9 F区第2面断面図
(S=1/20)

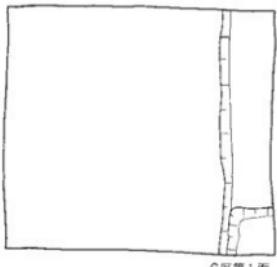


図10 G区第1面平面図
(S=1/20)

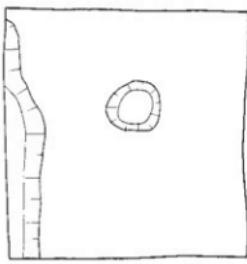


図11 G区第2面断面図
(S=1/20)

0 2m

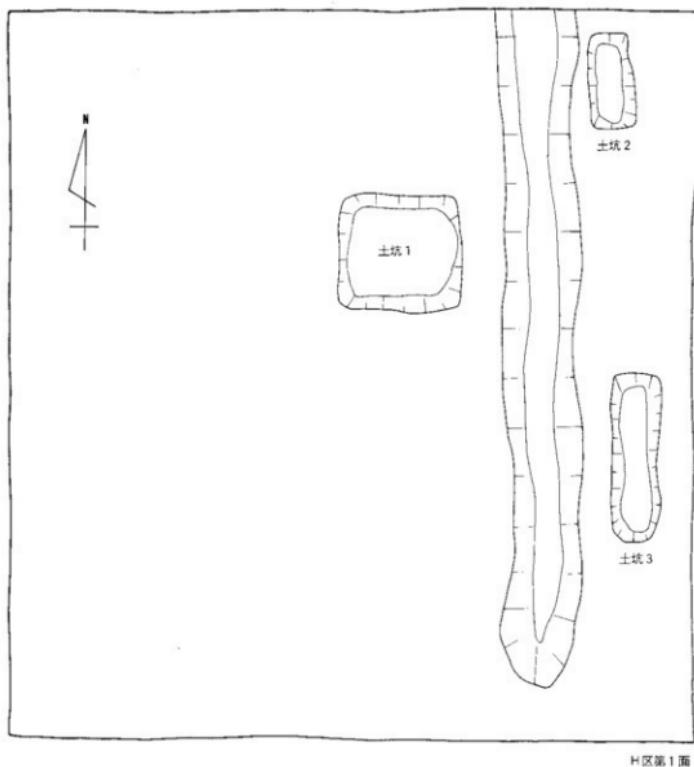
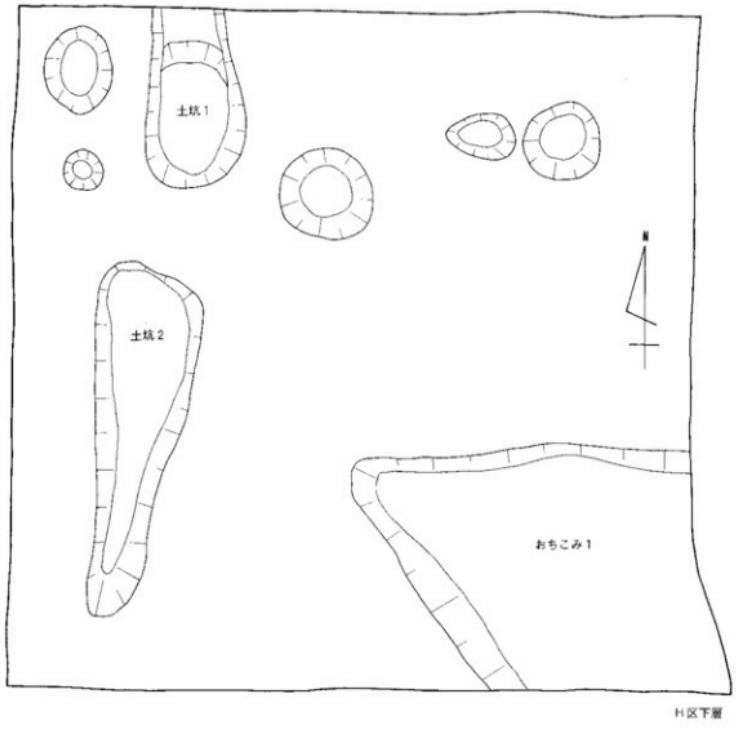


図12 H区第1面平面図 ($S=1/20$)



0 2m

図13 H区第2面平面図 ($S=1/20$)

であるが、さらに大きく広がっている。深さは最大で40cmで、埋土内から多量の瓦片、染付などの遺物が出土している。埋土の内部には炭化物も多く含まれており火災のあとで瓦などを投棄する目的で掘られた土坑と思われる。

(G区) G区は南側に張り出した調査区の南西隅に所在している。現状は畠であったので15cmの厚さの耕土をすきとり、そこからさらに8cm程度掘削した場所で第1遺構面を検出した。この面では溝1条を検出している。溝は調査区の東端南北に走っているが、北端、南端、東肩はいずれも調査区の外であり、規模は不明である。南端が少し深くなっているがその箇所においても深さは15cmという浅い溝である。この遺構面からはほとんど遺物は検出されていない。この面からさらに25cm下がった場所で第2遺構面を検出した。この遺構面でも溝1条と土坑1基を検出した。溝は調査区の西端を南北に走っているが南端は調査区外である。調査区内において長さは190cm、幅は35cm。深さは20cm。土坑は調査区のほぼ中央に所在し、直径45cm、深さ25cmである。この遺構面でも遺物の検出はみられなかった。

(H区) 調査区全体の東端において予定されている道路部分に、H区として南北600cm東西550cmの調査区を設定した。現状地盤より30cm下で第1遺構面を検出した。この遺構面においてはおいこみ東端で溝1条、土坑3基を検出している。溝は調査区の北側にさらに延びており調査区内において長さ556cm、最大幅35cm。深さは最大でも15cmという浅い溝である。土坑1は南北46cm・東西50cmの方形で、深さは20cmである。土坑2は南北40cm・東西18cmの溝状の遺構で深さは5cm、土坑3は南北70cm・東西20cm。やはり深さは5cmであった。土坑2・3は溝にはば平行に位置している。第1遺構面からさらに30cm下に第2遺構面が所在した。調査区の南東隅には落ち込み状の遺構があった。調査区内において東西280cm、南北105cmの不整形の遺構で、深さは最大で20m、染付碗などが出土している。土坑1は調査区外に延びる溝状の土坑で、調査区内において南北150cm、東西90cmである。南端が少し深くなってしまっておりその部分で深さ25cmであった。土坑1のすぐ南に土坑2があるが方向はやや南端が西側に振っており完全に南北方向というわけではない。南北290cm・東西90cm、深さ8cmの浅い溝である。土坑1を挟んで東西方向にピットが5基並ぶが、明確な規則性はみられずその性格は不明である。

3・遺 物

狹山藩陣屋跡00-1区から出土した遺物は大半が第2遺構面の遺物であった。第1遺構面の遺物は細片が多く、図化できたのはすべて第2遺構面から出土した遺物である。個々の遺物については観察表に記載した通りであるのでここでは特色のあるものにのみふれることとした。

産地としてもっと多いのは肥前系のものであるが、唐津はまったく見られず磁器のみである。13の「寿」字ちらしや39の見込み五弁花のように18世紀の作風をしめすものが多い。

陶器としては10の土鍋（瀬戸美濃系）、15の茶わん（産地不明）、19の土瓶（瀬戸美濃系）などが出土している。摺鉢は41が備前、42が堺、また29はミニチュアの摺鉢である。土製品もいくつか出土している。11は楕円立などの台部分か。頂点に穴があけられている。27は火舎。内面にすすが付着している。瓦は瓦当の残るもののみを実測したが、軒丸瓦は巴紋、軒平瓦の文様はすべて均輪唐草紋であるが、実測したかぎりでは同範のものはみつけられない。また実測しなかったものもふくめて棟瓦はみられなかった。

| 図面番号 | 遺物番号 | 調査区 | 遺構面 | 器種 | 产地 | 口径 | 器高 | 文様 | その他 |
|------|------|------|-------|-----------------|--------|------|------|----------------------------------|----------------------|
| 1 | 5 | C区下層 | 土坑内 | 磁器・中碗 | 肥前系 | 10.2 | 5.1 | (染付)草花 | |
| 2 | 5 | C区下層 | 土坑内 | 磁器・中碗 | | 11 | 4.6 | 竹籠草、内面口縁格子 | |
| 3 | 5 | C区下層 | 土坑内 | 磁器・中碗 | | | 3.2 | 草花、高白裏鉢、見込み 梅花 | 高台径3.6 |
| 4 | 5 | C区下層 | 土坑内 | 磁器・小皿 | | 9 | 2.3 | 草 | |
| 5 | 5 | C区下層 | 土坑内 | 磁器・中碗 | 肥前系 | | 2.3 | 松 | 高台径3.4 |
| 6 | 5 | C区下層 | 土坑内 | 磁器・小碗 | 肥前系 | | 3.7 | 草 | 高台径3.7 |
| 7 | 5 | C区下層 | 土坑内 | 磁器・小瓶 | 肥前系 | | 3.5 | | 底径5 |
| 8 | 5 | C区下層 | 土坑内 | 磁器・段重 | 肥前系 | 15.4 | 5.5 | 山水 | |
| 9 | 5 | C区下層 | 土坑内 | 磁器・彌徳利 | | | 8 | (染付)山水 | 底径5.6 |
| 10 | 5 | C区下層 | 土坑内 | 陶器・土鍋 | 瀬戸・美濃焼 | 16.6 | 7.1 | | |
| 11 | 5 | C区下層 | 土坑内 | 土製品(台か) | | | 3.2 | | 底径6.6、 用途不明 |
| 12 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 磁器・中碗 | 肥前系 | 10.8 | 5.2 | (染付)草花 | |
| 13 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 磁器・小皿 (盤形) | 肥前系 | 9.9 | 3.15 | (染付)見込寿字臺雲散 らし | |
| 14 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 磁器・小皿 | 肥前系 | 9.8 | 2.7 | (染付)草花 | |
| 15 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 陶器・中碗 | | 9.2 | 5 | | |
| 16 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 磁器・大瓶 | 肥前系 | | 11.7 | 草花 | 高台径8.6 |
| 17 | 7 | F区下層 | 土坑内 | せつ器・瓶 (人形他利) | 備前系 | | | 布袋 | |
| 18 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 磁器・仏花瓶 | | 9.2 | 16.1 | (青磁) | |
| 19 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 土器・土瓶 (算盤玉形) | 瀬戸・美濃系 | 7.6 | 9.1 | (青灰色の灰釉) | 体部径17 |
| 20 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 瓦・軒平瓦 | | | | 唐草 | 長さ9.4、 厚さ1.5 |
| 21 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 瓦・軒平瓦 | | | | 唐草 | 長さ9.1、 厚さ1.4 |
| 22 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 瓦・丸瓦 | | | | 連珠 | 長さ10.9 |
| 23 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 瓦・軒平瓦 | | | | | 長さ26.3 |
| 24 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 瓦・丸瓦 | | | | | 長さ20.8、 幅17.7、高さ7 |
| 25 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 瓦・軒丸瓦 | | | | 左巻三巴、連珠17 | 厚さ1.5 |
| 26 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 瓦 | | | | | 長さ5、厚さ1 |
| 27 | 7 | F区下層 | 土坑内 | 土器・火舍 | | | 17.4 | | 高台径24.6 |
| 28 | 10 | H区下層 | 土坑1 | 磁器・小皿 | 肥前系 | 9.6 | 2.6 | かぶら | |
| 29 | 10 | H区下層 | 土坑1 | せつ器・ ミニチュア | | 10.2 | 3 | | 底径3.8 |
| 30 | 10 | H区下層 | 土坑1 | 磁器・小型皿 | 肥前系 | 5.2 | 1.6 | 草花 | |
| 31 | 10 | H区下層 | 土坑1 | 磁器・中碗 | 肥前系 | 9.3 | 5 | (白磁) | |
| 32 | 10 | H区下層 | 土坑1 | 陶器・中碗 | 瀬戸・美濃焼 | 9.4 | 7.1 | (黄色の透明釉) | |
| 33 | 10 | H区下層 | 土坑1 | 瓦・軒平瓦 | | | | 唐草 | 長さ27、 厚さ1.6 |
| 34 | 11 | H区下層 | 落ち込み1 | 瓦・軒平瓦 | | | | 左巻三巴、連珠13 | 厚さ1.5、 丸区径13.4 |
| 35 | 11 | H区下層 | 落ち込み1 | 磁器・中碗 | 肥前系 | 11.2 | 4.4 | (染付)宝輪文繋ぎ | |
| 36 | 11 | H区下層 | 落ち込み1 | 磁器・中鉢 | 肥前系 | 16 | 7.5 | 草花、見込み五弁花 | |
| 37 | 11 | H区下層 | 落ち込み1 | 磁器・小碗 | | 6.8 | 8.6 | 草花 | |
| 38 | 11 | H区下層 | 落ち込み1 | 磁器・小皿 | 肥前系 | 8 | 2.6 | 波頭文に楓散らし文、 見込み五弁花、 内面口縁菱格子 | 底面唐草 |
| 39 | 11 | H区下層 | 落ち込み1 | 磁器・小碗 | | 7 | 3 | 草花、西方連続模様 | |
| 40 | 11 | H区下層 | 落ち込み1 | 磁器・蓋物蓋 | 肥前系 | 9.2 | 3.9 | (染付)蘇鉢 | |
| 41 | 11 | H区下層 | 落ち込み1 | せつ器・捕鉢 | | 34.4 | 13.5 | | |
| 42 | 11 | H区下層 | 落ち込み1 | せつ器・捕鉢 | | 38 | 13 | | |

* 33は写真なし

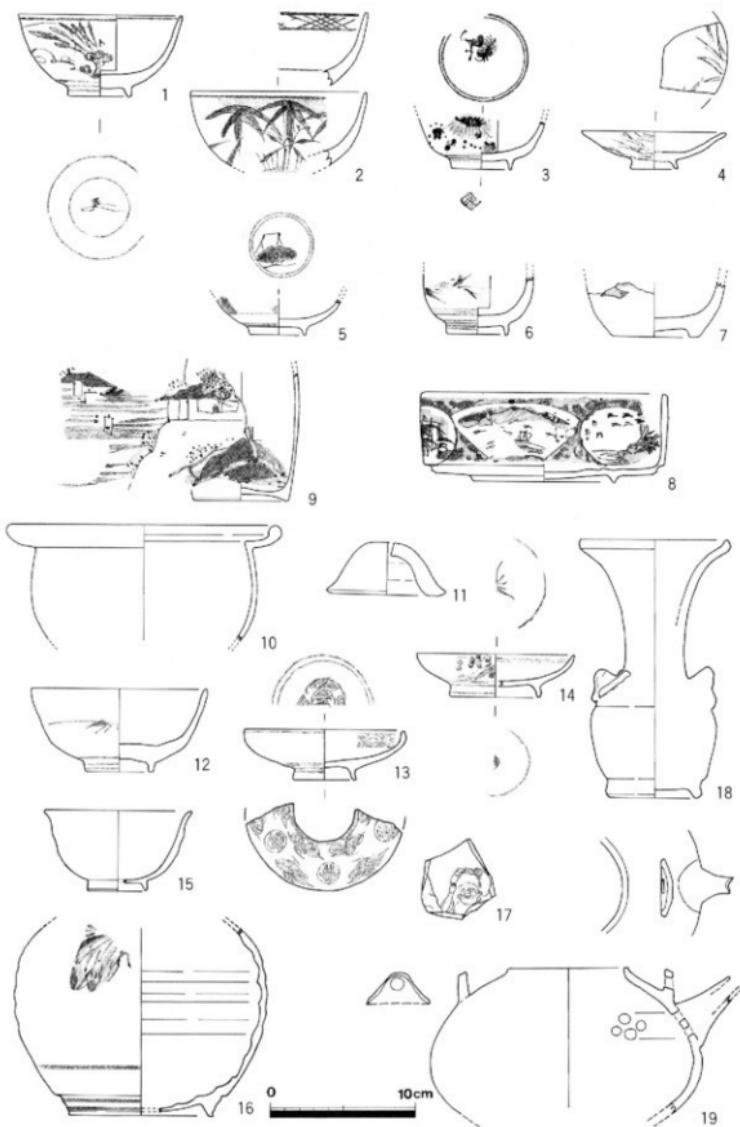


図14 出土遺物(1)

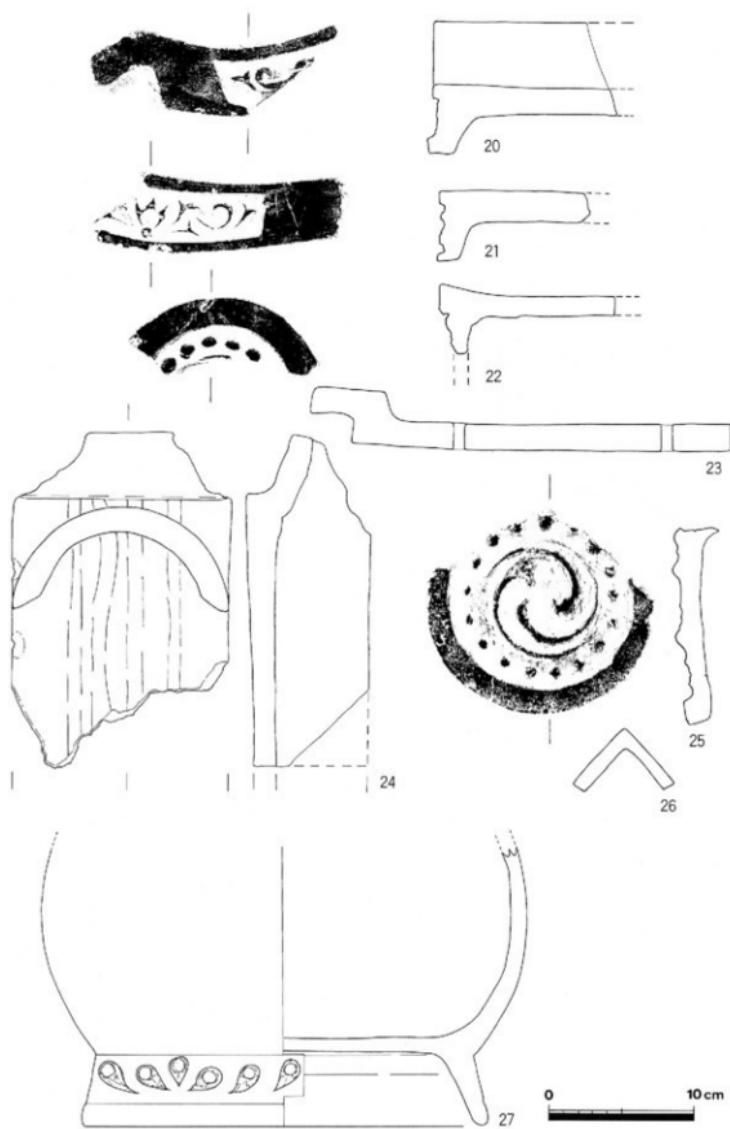


図15 出土遺物(2)

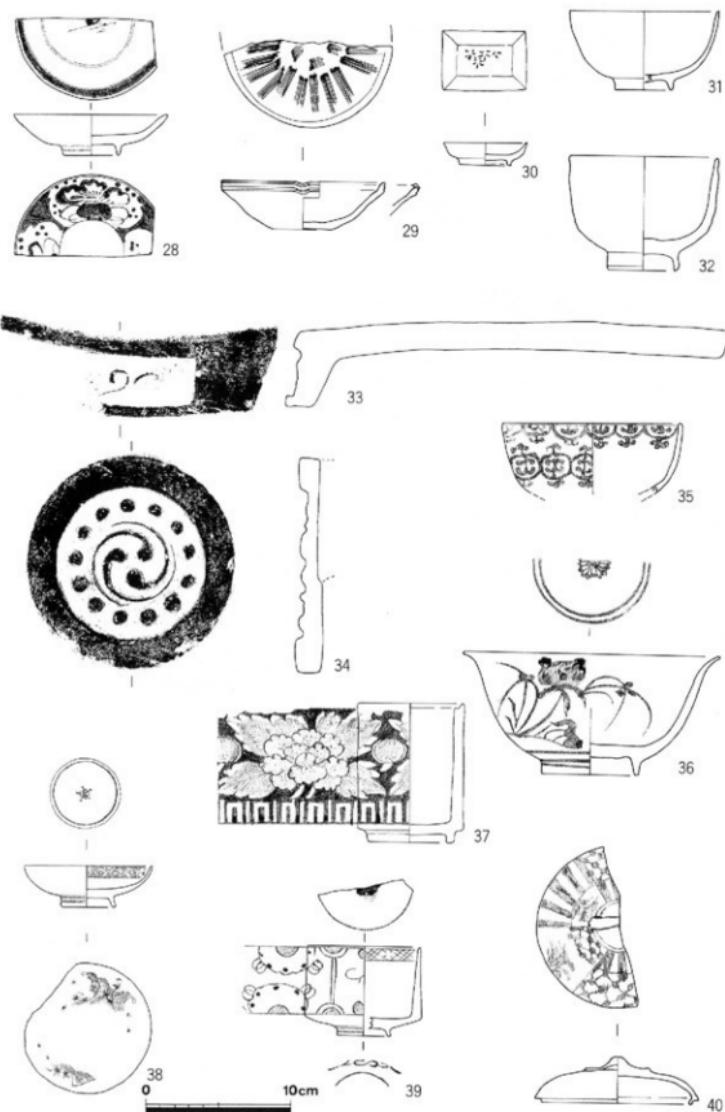


图16 出土遗物(3)

4・まとめ

本調査区においては非常に小面積の発掘調査を実施するにとどまったために、遺構の全体的な状況を明確に把握するにはいたらなかった。第1遺構面は東よりの各調査区で検出できただけであるが、各調査区において南北方向の溝が検出されている一方で柱穴などはみられず、建物はこれらの場所よりもさらに西側に存在していた可能性が強い。また第2遺構面はH区、F区やB区で不整形の土坑が検出しているがこれらは遺物の状況からいわゆるゴミ捨て用の穴であると考えられる。これらの穴は建物の周辺部分に建てられたことが多いため、この時期の主要な建物は調査区全体のほぼ中央に所在した可能性が強い。C区、D区、E区などでは東西、南北に軸をもつ溝などが検出されている。西側の調査区で検出された溝は屋敷地からの排水を目的にしたものと考えられ、西側の大手道側に家屋が建てられていた可能性が強い。遺物は第1遺構面からの出土はほとんどなかつたが、第2遺構面からは容器、瓦などが多く出土している。産地は肥前系のものが多く、時代的には大橋康二氏の肥前磁器編年の第Ⅳ期（1690～1780）のものが多い。

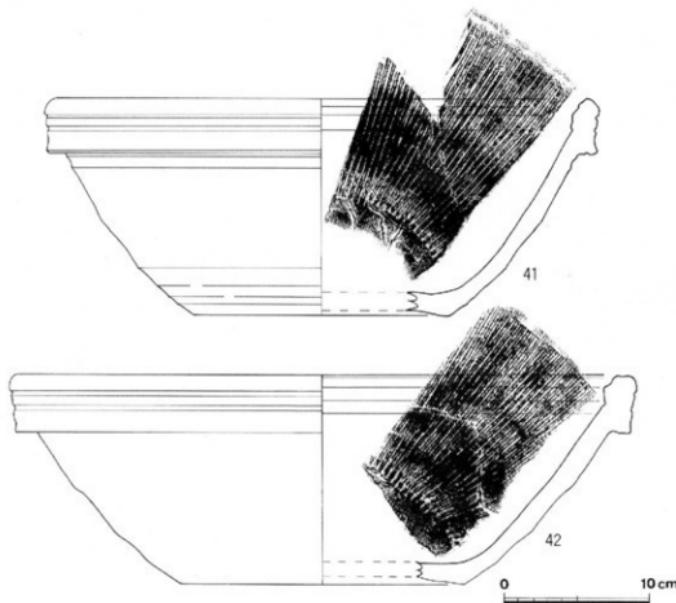


図17 出土遺物(4)



1. C区第2面



2. D区第2面



3. E区第1面



4. F区第1面



5. F区第2面



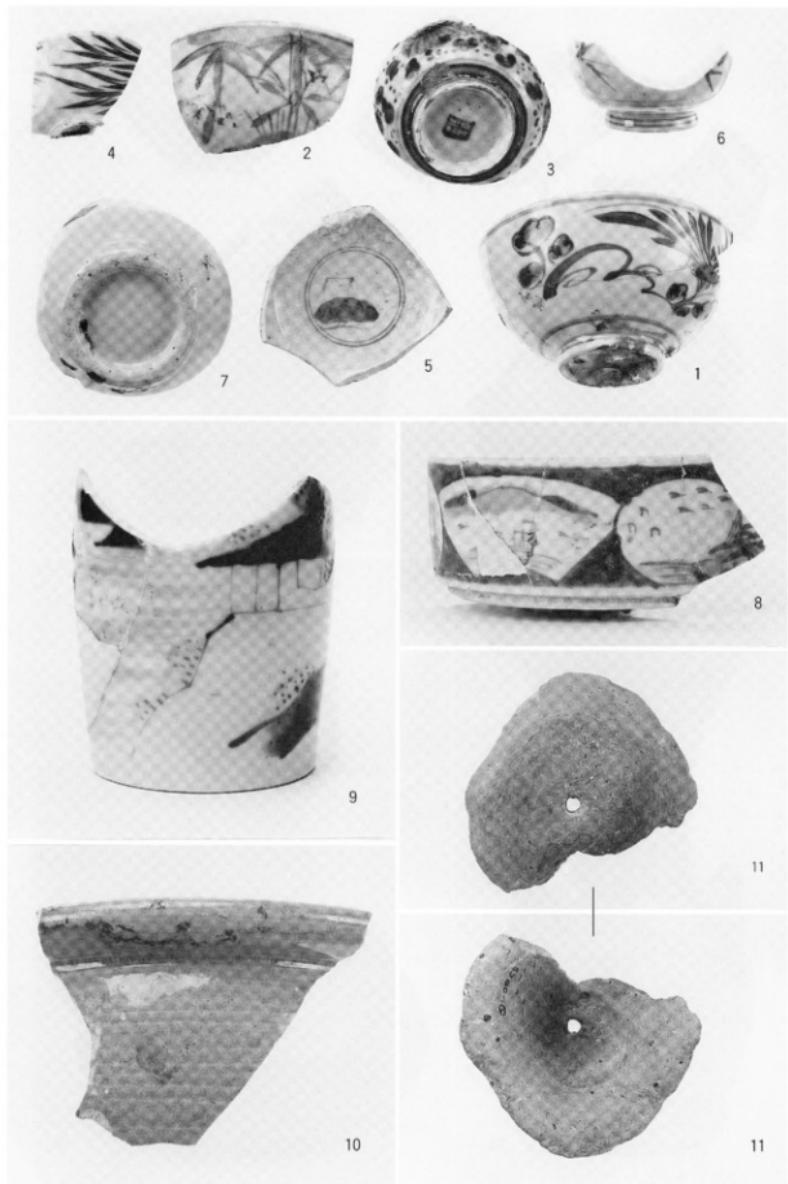
5. G区第2面

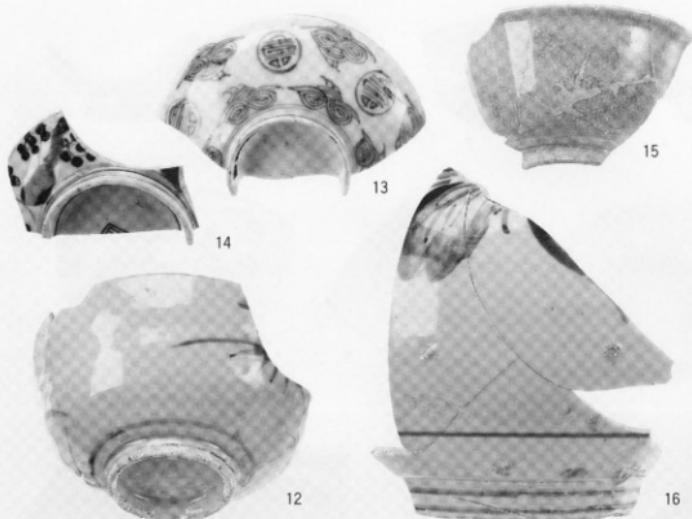


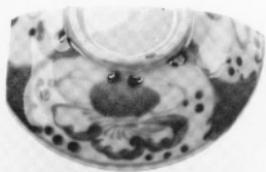
7. H区第1面



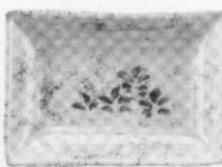
8. H区第2面



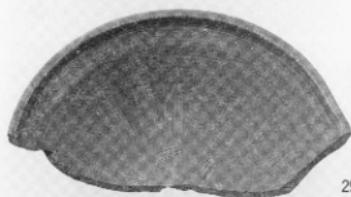




28



30



29



31



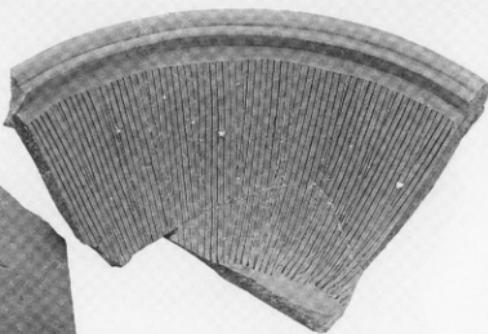
32



34



27



報告書抄録

| ふりがな | へいせい12ねんど さやまはんじんやはくつちょうさほうこくしょ | | | | | | | |
|---------------|---------------------------------|-------|-----------------|-------------------|---|------------------|-------------------------|-----------------------|
| しょめい | 平成12年度 狹山藩陣屋跡発掘調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 大阪狭山市文化財報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 21 | | | | | | | |
| 編著書名 | 市川秀之 | | | | | | | |
| 編集機関 | 大阪狭山市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 589-0005 大阪府大阪狭山市狭山一丁目2384-1 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2001年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 面積 (m ²) | 調査原因 |
| 市町村 | 遺跡番号 | | | | | | | |
| 狭山藩陣屋跡 | 大阪府大阪狭山市狭山 | 27231 | | 34° 30' 15" | 135° 33' 30" | 200006 200006 | 45 | 住宅建築に ともなう 事前調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な造構 | | 主な遺物 | | | |
| 狭山藩陣屋跡 | 城館跡 | 江戸時代 | 溝、落ち込み状造構 土坑 | | 磁器碗、磁器皿、磁器段重 磁器徳利、人形徳利、土瓶、火舎 ミニチュア摺鉢、湊焼摺鉢 | | | |

大阪狭山市文化財報告書21

**平成12年度狭山藩陣屋跡
発掘調査報告書**

発行日 平成13年(2001年)3月31日

編集発行 大阪狭山市教育委員会

大阪府大阪狭山市狭山一丁目2384-1

印刷製本 橋本印刷株式会社